

**どんな職業か**

デザイナーが描いたイメージやデザイン画をもとに、服づくりの設計図である型紙（パターン）を制作する。デザイナーのイメージを具体的な形に表現して、洋服の生産に結びつける。

パターンメイキングの技法には、フラットパターンメイキング（平面製図法）と、人台に布をカットしながら止め付けて立体的なパターンメイキングを行うドレーピング（立体裁断法）とがあり、前者は原型からデザインバリエーションへの展開、パターンの部分的変更、デザインパターンからの工業用パターンの作成、表地用パターンからの裏地用や芯地用パターンの作成などに用いられ、後者は、デザイナーのイメージを実物に近い形で確認しながら作業できるため、新しい原型やシルエットパターンの作成に用いられる。

アパレルメーカーで洋服の素材やデザインの方向性が決定されると、デザイナーが考えたデザイン画をもとにサンプルパターンを作る。デザイナーの意図するイメージを読み取り、実際の生地や厚みを考慮しながらデザイン画の示す形を人型に布を組んで立体化する。デザイン画のイメージが正確に表現されているか、素材の強度はどうか、着やすさはどうか、シルエットは美しいかなどを細かくチェックしながら、裏地などのパターンも含めて何度も作り直してパターンを起こす。

パターンができあがると工場にサンプルを作ってもらい、さらに改良した上で量産のためにサイズ別の型紙を作る。デザインの説明、縫製の仕方、ボタンなどの付属品についての縫製仕様書を作成して工場に渡し、綿密な打ち合わせを行って洋服の生産に入る。

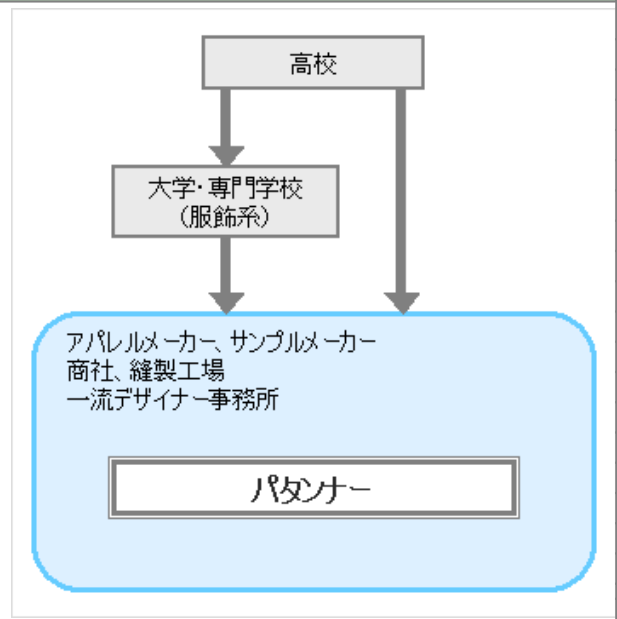
**就くには**

一般的に、洋裁学校や専門学校、大学の被服科などでパターンの基礎を身につけてから、アパレルメーカーなどに就職する。パターン作成に関する資格として「パターンメイキング技術検定」が実施されており、資格を取得すると就職に有利な場合がある。

学校で習った基礎的な技術だけでは不十分であり、各企業独自のパターンのスタイルを習得する必要があるために、少なくとも2～3年の実務経験が必要となる。また現実の場で必要な「応用力」やセンスを磨く必要がある。

ある程度の経験を積み、技術を身につければ、どこでも生かすことができるという強みがあり、勤務先を変えたり、フリーになったり、有名デザイナーの専属となる場合もある。技能検定の「婦人服製造技能士（婦人子供既製服パターンメイキング作業）」の資格を取得していれば技術の証明として評価される。

生地の柔らかさや厚みを念頭においたパターン制作ができるようになるには、かなりの経験と技術、ファッションセンスが必要となる。また、パターン設計技術に加えて、縫製加工技術も必要となる。服作りが好きであること、ファッションや流行に敏感な感性が求められるほか、数ミリの狂いがミスを生むので、几帳面さや集中力も必要となる。



**労働条件の特徴**

大手アパレルメーカーが都市部に集中しているため、パタンナーの就業地も都市部に多い。サンプルメーカー、ファッション企画メーカー、デザイナー事務所などで働いている場合もある。その他、契約社員として働いている場合、フリーとして企業から仕事を請け負っている場合もある。

女性が大半を占めており、デザイナーがパタンナーを兼ねている場合も多い。

賃金は年齢や学歴に関係なく、経験や技能によって決まる場合が多い。フリーの場合は出来高制で契約によって金額が決まる。洋服の需要は1年を通じて一定のサイクルがあるため、忙しい時期には労働時間が長くなりがちで休日を返上して働くこともある。

ファッション関連の仕事の中では高度な技術と経験が必要とされる仕事であり、一度技術を身につければ長く働けるという強みがある。高度な技術をもったパタンナーは常に求められており、一定の需要がある。

**参考情報**

**関連団体** 全日本婦人子供服工業組合連合会  
 電話:03-3866-8920 FAX:03-3866-9009  
 一般社団法人 日本アパレル・ファッション産業協会  
<http://www.jaic.or.jp>

**関連資格** 婦人子供服製造技能士 パターンメイキング技術検定